



巻頭言

共助・循環型社会経済システム開発を目指して



ネパールの段々畑

HFI が地域開発に取り組み始めたきっかけは、いくつかあります。一つは、個々の子どもに対する教育支援は、その目標を達成しえても、そうしたニーズのある子どもは後を絶たない現実に直面したことでした。また、外国から入り込む団体が、公正を期し丁寧に支援を行おうとすればするほど、コストは高くなり、非効率である問題が意識されたためでした。そこで、貧困児童が生まれる地域そのものを直視し、貧困児童を生み出さない共同体作りを現地の人々と一緒に考え、側面からサポートすることが、より自立性と持続性を生み出す支援になる、と考えるようになったのです。

この数年、こうして地域開発に向けて準備を進めながら、いくつか同時並行的に考えていくべき課題があると思われています。一つは、地域開発としてよく導入される、増収効果型のプロジェクトは、しばしば農村における貧富の格差を拡大するだけである、という単純な問題です。やはり、人間のすることには、どうしても利益追求に向かい、勝ち組がさらに勝ち続けるための支援にすり替わってしまうことがあるのです。ですから、最初からこの開発は、「村から貧困者を一人も出さない」ようにする共助的な共同体を完成させ、他の貧困集落に対する救済モデルとして支援することを考えたいと思っています。

また、開発は、自然、人間、経済のシステムバランスを維持する中で考えられなくてはなりません。

今回開発を考えている地域には水源の問題がありました。雨水でしか作物を生産できない天水畑での三毛作を考えるに、どこから水を引いてくるか。その地域では、年々水量が減少していますが、その原因は森林伐採の影響であることは明らかでした。次世代のニーズを損なうことのないように、資源・環境を保全しつつ、今の世代のニーズを満足させる開発、いわゆる持続可能な開発が考えられなくてはいけないのです。長い目で見れば、将来を先取りした開発が重要なのであり、単純な増産増収ではなく「適正な利潤」を考えた人間と自然との間により循環が起る支援を目指したいと思っています。ぜひ、続けて、ご支援をよろしくお願いいたします。

(代表 福井誠)

CONTENTS

- スタディーツアー報告 …p.2
- ツアー参加者の声 …p.3
- ネパール農業開発概要
JICA 支援事業に採択 …p.4
- セブ・プロジェクト
現地活動報告 …p.5
- 奨学金ピースファンド …p.7